

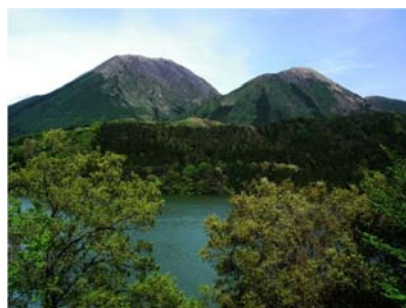
プロジェクトの実施 (三瓶山地域)



北の原 姫逃池



三瓶自然館サヒメル



浮布池



西の原



東の原

4.5 プロジェクトの実施（三瓶山地域）

三瓶山は、かつての火口である「室（むろ）の内（うち）」を中心に主峰「男三瓶」をはじめ、「女三瓶」「子三瓶」「孫三瓶」などの峰が環状に連なり柔らかな稜線を描く山である。出雲国風土記の国引き神話には「佐比売山（さひめやま）」と記され、大山と共に国を引き寄せた綱をつなぎ止めた杭とされるなど、古くから地域のシンボリックな山として親しまれてきた。また、山頂からは大山、隠岐、島根半島が眺望でき、神話の舞台が一望できるのも三瓶山の魅力のひとつである。

三瓶山の最高峰は、男三瓶山頂（1,126m）で、一体は草原地帯となっている。また、男三瓶北斜面と室の内地区にはブナの自然林が群生し、国の天然記念物に指定されている。山麓部には火山活動によってできた3つの湖沼に写る四季折々の景観があり、北の原、西の原、東の原と呼ばれる草原地帯では、牛の放牧や火入れなど地域のボランティアをはじめ三瓶山を愛する多くの人により、環境保全や自然保護活動が行われ、三瓶山の象徴といわれる牧歌的景観が維持されている。

三瓶山地域は、「国民保養温泉地」として指定されている三瓶温泉をはじめ、周辺の良質な効能のある温泉地に恵まれており、「島根県立三瓶自然館サヒメル」や周辺の「三瓶小豆原埋没林公園」など、三瓶山の成り立ちや自然などの学習の場としての施設も充実している。

また、三瓶山は、四季折々の豊かな自然の中で、初心者から上級者まで楽しめる登山やウォーキング、サイクリング、キャンプ、自然散策などにより、多くの人々に親しまれ、誰をもやさしく包み込む包容力あふれる山である。

このことから、三瓶山地域のコンセプトを「やさしさ、包容力あふれる神話の山」とし、訪日外国人をはじめ家族連れや子どもから女性、高齢者など、幅広い観光客層をやさしく受け入れて、保養などのリフレッシュ、自然や歴史・神話などの学習、様々なアクティビティの体験などを充実させ、訪れた人が長く滞在したくなるような地域を目指す。

今後、訪日外国人をはじめ、多くの来訪者に自然、歴史・文化、アクティビティを楽しんでもらうためには、自然保護や環境保全活動などを充実させ、自然に対する配慮を第一に考えて、三瓶山地域ならではの滞在性、周遊性の向上を図り、ナショナルパークに相應しい取組を官民一体となって行う。

(1) 主要交通拠点から国立公園主要利用拠点までのアクセスルートに係る事項

1) アクセスルートの特定と取組方針

三瓶山地域へ来訪する外国人旅行者の交通拠点として、JR 大田市駅、世界遺産「石見銀山」、出雲空港、国道 54 号からのルートや松江自動車道・山陰自動車道の近隣 IC を想定する。

交通拠点から三瓶山地域の利用拠点を結ぶ二次交通ルートを以下のとおり設定し、重点的に景観形成を図るべきルートとして位置づけ、良質な景観の確保と利便性の向上を図る。



図 20 アクセスルート図（三瓶山地域）

2) アクセスルート上で実施する事項

想定されるルートは、一部国立公園区域内も含め島根県、関係自治体の屋外広告物条例や景観形成条例で広告物等の乱立を規制しており、主要道路沿線を中心に景観の保全を図っているところである。

しかしながら、インバウンド対応の観点からみると、主要交通拠点での多言語表記による情報発信が十分に行われていない。誘導標識や案内看板などは日本語のみの表記で、外国人旅行者にとって分かり難い場所となっている。また、老朽化した看板や標識があり、景観を損ねている。さらに、ルート沿いの眺望地点が不明瞭であり、魅力を十分に発信できていない。公共交通機関が充実していないことや道中の道の駅などに Wi-Fi 環境が整備されていないことも課題として挙げられる。

これらの現状と課題を踏まえて景観改善を図り、案内看板、誘導標識の見直し等を行う。主要交通拠点に Wi-Fi 環境や案内設備（デジタルサイネージ）等の設置を検討し、多言語化や常に新しく的確な情報発信をすることにより、迷うことなく訪れることができるようにする。また、国立公園に近づくワクワク感を醸し出すためにも、看板の新設や景観を損ねる看板や老朽化施設等の撤去を行う。

公共交通機関運行状況の多言語化及び主要交通拠点への掲示、HP 等でわかりやすく情報を収集できる環境整備について運行会社へ働きかける。また、国立公園の眺望地点や利用可能な施設情報を整理し、適切な情報発信を行う。

表 63 アクセスルート上の実施方針

方針	想定主体
平成 29 年度に、訪日外国人をはじめとした公園利用者が迷わず目的地に到着できるよう、案内看板などの多言語化整備、誘導標識の見直しやデザインの統一化、主要交通拠点における案内設備（デジタルサイネージ等）の設置などを検討する。	環境省 島根県 大田市
平成 29 年度に、「道の駅」などの立ち寄り施設で、Wi-Fi 環境の整備や、外国人旅行者がスムーズに旅行ができるよう多言語表記のパンフレットを設置するなどの情報提供を検討する。	三瓶山広域ツーリズム 振興協議会 施設管理者（大田市）
平成 29 年度に、景観改善のために必要な老朽化した看板や施設の撤去を検討してもらうよう施設管理者へ働きかける。	環境省 島根県 大田市
平成 29 年度に、訪日外国人をはじめ公園利用者がスムーズに公共交通機関を利用できるようアクセスの充実、利便性の向上について交通事業者へ働きかけるとともに、サイクリングなどを利用したエコトラックが促進するよう検討を行う。	環境省 島根県 大田市
平成 32 年度までに、三瓶山周回道路における主要眺望地点において、車窓からの景観眺望を向上させるための修景伐採等を実施する。	大田市
平成 32 年度までに、周辺交通拠点における誘導策について、まずは三瓶山地域利用のエントランスとなる「三瓶自然館サヒメル」へのアクセス情報提供を優先して行い、その後、順次各地点で実施する。	島根県 大田市 飯南町 美郷町 施設管理者
平成 32 年度までに、「三瓶小豆原埋没林公園」のガイダンス施設の整備について検討を行い、三瓶山の成り立ちや三瓶の自然の紹介を行うとともに、三瓶山への誘客を促進する。	島根県
平成 29 年度に、三瓶山周辺施設（三瓶小豆原埋没林公園、世界遺産の石見銀山）などと連携して、誘客対策を検討する。	島根県 大田市
平成 29 年度に、中国自動車道三次 IC 下車付近において三瓶山エリアへの多言語誘導標識の設置を検討する。	飯南町


(2) 国立公園内に係る事項

1) 三瓶山地域全体の取組方針

三瓶山地域には、「三瓶自然館サヒメル」や、キャンプが楽しめる北の原、広大な草原の景観が広がる西の原、観光リフトを利用して大平山頂上から絶景が望める東の原、上質な温泉の三瓶温泉・湯抱温泉など余暇を満喫できるエリアが存在する。

また、樹林の中を巡る登山道周辺には、希少な動植物も多数生息・生育しており、優れた自然が維持されている。

三瓶山地域においては、引き続き地元関係者や関係行政機関と連携した環境保全の取組を継続しつつ、訪日外国人をはじめとした来訪者に分かりやすい案内看板の整備、快適な施設



環境を確保するための整備、ツアー・プログラムの開発、ガイド養成などを行い、リピーター率の向上や長期滞在をしてもらうよう取組の強化を図る。

① 多様なサービスのための民間活用

(i) ビジターセンター等公共施設の民間開放等

- 「三瓶自然館サヒメル」のインバウンド対策を中心としたリニューアル整備の検討にあわせて、自然体験アクティビティやガイドサービスを提供する民間事業者によるツアーデスクの開設も図る。
- 三瓶山東の原で休止している施設を再利用して、民間事業者が利用できるよう開放する。また、周辺施設の整備（トイレ、駐車場、休止施設の撤去）などを行い、三瓶山観光を牽引する新たな観光スポットとして、誘客の促進策を検討する。
- 三瓶山西の原にある「西の原レストハウス」にビジターセンター機能を持たせるために、民間事業者とともに検討を進める。

(ii) 上質な宿泊施設の提供

- 三瓶山地域はファミリー層や女性が訪れやすく、自然と親しみやすい環境にあることから、既存のキャンプ場においてはこれらをターゲットとしてグランピングのようなワンランク上のサービスも提供可能となるような再整備や運営を検討する。

(iii) ツアー・プログラム開発とガイド育成

- 三瓶山北斜面自然林は国の天然記念物に指定されており、「森林浴の森日本 100選」にも選ばれている。三瓶山の希少な動植物が観察できる登山道や自然歩道が整備されており、これらを活かしたプログラムの開発を行う。
- 三瓶山地域の自然を活用したヘルスツーリズムの従来の取組やノルディックウォークのコース化を推進し、健康を切り口に、外国人利用者を対象とした魅力的な健康プログラムの開発を行うとともに、健康知識を有し、外国語での対応も可能なガイドを育成する。
- 地域の伝統芸能である「石見神楽」をプログラム活用することを検討する。

(iv) 利用料等の公園管理への活用

- 施設利用料や協力金の徴収、ガイドツアー料金の一部を施設や景観維持管理に充てる仕組みを検討する。

② まちなみ等の景観改善

- 三瓶山地域の取組にあった景観基準について、関係自治体、公園内の住民、事業者（宿泊事業者、周辺観光施設）などで話し合いながら検討を行う。
- 廃屋などの撤去の働きかけ、景観改善、看板の多言語化や誘導標識の見直し整備をする。
- 主要な景観構成要素である草原景観の維持に努める。

③ インバウンド対応のための施設整備等

- 多言語化看板や誘導標識の見直し整備
- トイレの一部洋式化
- 外国人利用者が滞在するエリアへの Wi-Fi 設置
- 展望所などの景勝地の整備
- 拠点施設(三瓶自然館)におけるインバウンド対策、ビジターセンター機能の強化、ツアーディスクの開設をするためのリニューアル整備の検討
- 宿泊事業者との連携を図り、宿泊施設の充実とサービスの質の向上につながる取組の促進
- 主要な利用ルート上における公園区域境界付近において、国立公園エントランス標識整備の検討

2) ビューポイント（重点取組地域）に係る事項

① ビューポイントの設定

本地域におけるビューポイントを以下のとおり設定する。

i 三瓶山



図 21 ビューポイント位置図（三瓶山地域）

② ビューポイント等において実施する事項

(i) 三瓶山

島根県のほぼ中央部に位置する三瓶山は、主峰・男三瓶山（1,126m）をはじめ、6つの峰が「室の内」と呼ばれる火口を囲んで環状に連なり、訪れる人を魅了する景観が広がっている。また、三瓶山の山麓には、広大な高原、環境大臣が指定する国民保養温泉地にもなっている三瓶温泉などの温泉地を有している。「三瓶自然館サヒメル」が三瓶地域の自然の紹介、野外体験のガイダンスなどを実施しており、老若男女を問わずに気軽にアウトドアが楽しめる利用拠点である。さらに、近隣地域には多くの外国人旅行者が訪れている世界遺産「石見銀山」があり、島根県の伝統芸能として有名な「石見神楽」の公演や文

化の継承が行われるなど、三瓶山地域周辺には関西や広島方面からの訪日外国人旅行者の誘客が期待できる資源が数多く存在している。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ビジターセンター等公共施設の民間開放等

表 64 公共施設の民間開放方針（三瓶山）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度に、「三瓶自然館サヒメル」において、外国人利用者にも対応したツアーデスクの設置などを含めたりリニューアル整備を検討する。	三瓶山博物展示施設	島根県

b) ツアー・プログラム開発とガイド育成

表 65 ツアー・プログラム開発とガイド育成方針（三瓶山）

方針	想定主体
平成 29 年度に、三瓶山の希少な動植物が観察できる登山道や自然歩道における自然観察プログラムの開発について検討する。	三瓶山広域ツーリズム振興協議会 地域事業者
平成 32 年度までに、ヘルスツーリズムの一環としてのウォーキングコースの充実を図るため、ヘルシートレイリングコース（全長約 4.5km のサイクリングコース）の設定とノルディックウォーキングの公認コース化（NPO 法人日本ノルディックフィットネス協会（JNFA）公認）を目指して取り組む。同時に、外国語の対応もできるガイドを養成する。	大田市 地域事業者
平成 29 年度に、清々しい高原で楽しめるサイクリングが三瓶山の代表的なアクティビティになるよう、やまなみ街道サイクリングロード（三瓶山コース）、三瓶山周回道路の利用促進策を検討する。 また、交通アクセスの悪い三瓶山地域のエコトラックにおける自転車の活用促進を検討する。	大田市
平成 29 年度に、地域の伝統芸能である「石見神楽」を盛り込んだプログラム開発を検討する。	大田市

c) 利用料等の公園管理への活用

表 66 利用料等の公園管理への活用方針（三瓶山）

方針	想定主体
平成 29 年度に、登山道やヘルシートレイリングコース等における地域の維持管理体制を整えるため、施設利用料や協力金の徴収、ガイドツアー料金の一部を施設や景観維持管理に充てる仕組みを検討する。	大田市 地域活動団体

イ) まちなみ等の景観改善

表 67 景観改善方針（三瓶山）

方針	想定主体
ボランティア協力を得ながら「火入れ」や「クリーン三瓶」の取組による草原景観の維持管理を継続実施する。	大田市 地域活動団体
平成 29 年度に、老朽化等により景観を阻害するに至った不要施設（リフト、雪嶺の家、さんべ山の家等）の撤去整理を検討する。	大田市
平成 32 年度までに、主要な展望地や利用拠点において、景観眺望を阻害する樹木等の伐採を順次進める。	大田市
引き続き、三瓶上山地区における修景植栽等の景観改善事業を実施する。	地域活動団体
平成 29 年度までに、案内、誘導標識のデザイン統一化や老朽化したバス停施設の撤去・新設を検討する。	大田市 交通事業者

ウ) インバウンド対策のための施設整備等

(1) 三瓶山北の原周辺

○取組方針

三瓶山北の原には、三瓶フィールドミュージアム構想の中核施設として「三瓶自然館サヒメル」が整備されており、三瓶山地域のビジターセンターとしての機能を有している。今回のプロジェクトにおいて、解説看板の多言語化などインバウンド対策を中心としたリニューアル整備の検討を行い、三瓶山地域への誘客を強力に牽引する施設となるような再整備を図る。

また、同施設には、直径 20m のプラネタリウム施設や口径 60 cm の大型望遠鏡などの天体施設があることから、「青少年交流の家」や「北の原キャンプ場」、三瓶温泉など周辺の宿泊施設などとの連携を強化して、三瓶山地域における宿泊滞在を促進する。

その他、訪日外国人をはじめとした公園利用者が快適に過ごせるよう、トイレの洋式化等再整備などの基盤整備を図り、民間活力を利用した管理運営を検討するなど、繰り返し訪れたくなるような国立公園を目指す。

表 68 (1) 施設整備方針（三瓶山北の原周辺）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度に、「三瓶自然館サヒメル」のインバウンド対応機能を強化するため、館内サイン、解説看板の多言語化、分かりやすい展示施設、解説看板、ツアーディスクの設置など、インバウンド対策を中心としたリニューアル整備や公園利用者の増加に対応するため、駐車場の拡張整備を検討する。	三瓶山博物展示施設	島根県
平成 29 年度までに、訪日外国人をはじめ公園利用者に、快適に公園を利用してもらうために、基盤整備としてトイレの洋式化等再整備を行う。	三瓶山北の原園地のトイレ洋式化等再整備	島根県

表 68 (2) 施設整備方針（三瓶山北の原周辺）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度に、県の天然記念物である姫逃池のカキツバタ群落の景観を維持保全し、浮島の再生や利用者の安全快適性を向上させるよう、姫逃池の老朽化した木道の再整備を検討する。	三瓶山北の原園地 姫逃池カキツバタ群落木道 等の再整備	島根県
平成 29 年度に、欧米人に人気の高いキャンプ場の利便性を高め、三瓶の親しみやすい大自然で快適に過ごすことができるような再整備を検討する。	三瓶山北の原キャンプ場施設の再整備	大田市
平成 29 年度に、老朽化が進む北の原エリアの体験施設や飲食提供施設について、環境に調和した外装に変えるなど、周辺との一体性や滞在性を高める空間にしていくことを検討する。	市指定管理施設	大田市

（２）三瓶山東の原周辺

○取組の方針

三瓶山東の原では、平成 29 年度に民間事業者によるワイナリーの開設が予定されている。観光リフトに乗り大平山の頂上から望む絶景が東の原の観光ポイントであるが、ワイナリーが加わることで、新たな観光名所となり旅行者の増加が期待される。三瓶山東の原が三瓶山への集客の牽引役となり、訪日外国人をはじめ旅行者の集客が進むよう周辺の修景植栽や既存トイレの改修・駐車場整備、老朽化施設の撤去など、景観整備・環境整備に取り組む。

また、太平山からの眺望や室の内への素晴らしい眺望景観を登山客や観光客に更に感動してもらえるよう、展望所のリニューアルや景観を阻害する樹木の伐採を行う。

表 69 施設整備方針（三瓶山東の原周辺）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、訪日外国人をはじめ公園利用者が快適に公園を利用できるように、基盤整備としてトイレの洋式化等再整備を行う。	三瓶山東の原園地 トイレ洋式化等再整備	島根県
平成 29 年度までに、建設が予定されているワイナリーや観光リフトの利用増に対応するため、老朽化している東の原園地の駐車場の再整備と拡張を行う。	三瓶山東の原園地 駐車場再整備	島根県
平成 30 年度までに、今後、集客が多数見込める東の原において、現在老朽化が著しい室ノ内展望所の外装工事を実施する。 また、ワイナリー施設の改修に併せ、周辺の修景植栽や駐車場周辺の老朽化している建物の撤去を検討する。	東の原周辺施設再整備（室ノ内展望所・器具倉庫）	大田市

(3) 西の原周辺

○取組方針

三瓶山最高峰の男三瓶を背景とし、一面に草原が広がる西の原園地の牧歌的景観は、国立公園三瓶山の象徴として古くから親しまれてきた。登山、クロスカンントリー、トレッキング、グランドゴルフなどのスポーツやファミリーの行楽スポットとして、多種多様な楽しみ方ができるという特性をいっそう活かすことができるよう、西の原レストハウスのビジターセンターとしてのサブ拠点化や登山道・中国自然歩道の再整備、アクティビティやリラクゼーションエリアとしての草原の維持管理等にも取り組む。

表 70 施設整備方針（三瓶山西の原周辺）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、訪日外国人をはじめ公園利用者が快適に公園を利用できるように、基盤整備としてトイレの洋式化等再整備を行う。	三瓶山西の原園地 トイレ洋式化等再整備	島根県
平成 29 年度に、西の原の中核施設である西の原レストハウスをビジターセンターのサブ拠点とするための検討を行う。	西の原レストハウス 再整備	大田市 指定管理事業者
平成 29 年度に、登山客や西の原クロスカンントリーコース利用者が快適に滞在できるよう、シャワー棟の再整備を検討する。	西の原シャワー棟の 再整備	大田市
平成 29 年度に、水辺のリラクゼーションエリアである景勝地の浮布池周辺の再整備について検討する。	浮布池周辺整備（遊歩道、トイレ新築、芝生広場整備）	大田市
平成 29 年度に、安全性及び利便性を高めるため、中国自然歩道における「北の原・西の原モデルコース」と「西の原・湯抱モデルコース」について再整備を検討する。	中国自然歩道の再整備	環境省 島根県 大田市

(4) 三瓶温泉

○取組方針

三瓶温泉は、古くから湯治場として栄えてきた温泉地であり、豊かな自然環境と温泉の効用から保養や療養を目的とした利用者が多く訪れている。今後、歴史や文化、景観を大切にするとともに、温泉を利用した保養に加え、国立公園ならではの自然景観の中で、三瓶ヘルスツーリズムの拠点として、「訪れると心身ともに健康になれる温泉地」「外国人が親しみを持って利用できる温泉地」を目指す。

表 71 施設整備方針（三瓶温泉）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度に、インバウンド対応として温泉施設表示の多言語化、必要なりニューアル整備について計画を策定し整備を検討する。	施設表示の多言語化 及びリニューアル整備	大田市 施設管理者
平成 30 年度までに、外国人の利便性向上を図るため宿泊施設内表示の多言語化を行う。	宿泊施設のインバウンド対応整備	大田市 施設管理者

（５）三瓶山山頂・登山道・遊歩道

○取組方針

ヘルスツーリズムの取組が進む三瓶山地域では、ウォーキング、ジョギング、サイクリングなどの三瓶山周回道路やヘルシートレイルコースの利用者が多い。また、登山者やトレッキングなどの登山道や遊歩道利用者も多く、安全安心を向上させるよう、山麓遊歩道、登山道、案内板（多言語）整備などの対策を講じる。

また、倒木・落石の予防と撤去、通行に支障となるような樹木の伐採、木柵や防護柵の修繕、老朽化した道路舗装箇所の早期修繕に努め維持保全を強化する。

さらに、登山者が親しみやすい山として、山頂でのトイレ整備や避難小屋の再整備などの検討を行い、実現を目指す。

表 72 施設整備方針（三瓶山山頂・登山道・遊歩道）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、山麓遊歩道や山頂に至る登山道において、多言語表示の案内板や誘導標識の整備等を行うとともに、男三瓶山頂の荒廃箇所の植生復元を実施する。	男三瓶登山線道路（歩道） 三瓶山周回線道路（歩道） 男三瓶山頂植生復元施設	環境省 島根県 大田市
平成 32 年度までに、訪日外国人をはじめとする公園利用者が通行する市道、林道における舗装・防護柵修繕や支障木の伐採などを実施する。	—	大田市
平成 29 年度に、男三瓶山頂付近において、外国人登山者も快適に利用してもらえるよう洋式トイレ整備を検討する。	男三瓶登山線道路（歩道）	環境省 島根県 大田市
平成 29 年度に、男三瓶山頂付近の避難小屋（休憩所）の再整備について検討する。	男三瓶登山線道路（歩道）	島根県